

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 12 月 17 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	佐藤 侑太郎

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
日本、東京・国連大学、愛知・霊長類研究所
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
コスモス国際賞 25 周年記念シンポジウム、生物科学特殊講義 10
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 11 月 10 日～平成 29 年 11 月 15 日 (6 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
霊長類研究所 友永雅樹 教授 野生動物研究センター 狩野文浩 特定助教
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。
目的 本出張は、東京都国連大学において開催された、コスモス国際賞 25 周年記念シンポジウムへの参加、霊長類研究所における実験見学、および霊長類研究所で開講された生物科学特殊講義 10 の履修を目的とする。
行程 11 月 10 日 (金)：コスモス国際賞 25 周年記念シンポジウムへの参加 11 月 13 日 (土)：霊長類研究所にて実験見学 11 月 14 日 (火)・15 日 (水)：生物科学特殊講義 10 の受講
所感 東京都国連大学で開催されたコスモス国際賞 25 周年記念シンポジウムでは、過去の受賞者であるヨハン・ロックストリーム教授、ラマン・スクマール教授、そして今年度の受賞者であるジェーン・グドール氏が講演を行った(図 1)。どの講演も興味を駆り立てられるものであったが、なかでも著名なチンパンジー研究者であるジェーン・グドール氏の講演が印象的であった。講演時間が短かったのが残念であった。 13 日は、霊長類研究所にて、狩野文浩特定助教の実験を見学した。チンパンジーを対象とする、アイトラッカーを用いた認知実験である。自分の研究でも同様の手法を用いるため、大変参考になった。また、今後の実験で使用する動画刺激の撮影を行った。思い通りの刺激を撮影するのは非常



図 1. 会場の国連大学。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

に難しかった。

生物学特殊講義 10 は統計モデリングに関するものであった。統計学に明るくない私にとってもわかりやすい講義であった。今回の講義で学んだ内容を実際のデータ解析を通じ身に着けていきたい。普段遠隔地にいる私にとって、こういった講義によって知識を深める機会は貴重である。講義や研究会には今後も積極的に参加していきたい。

6. その他（特記事項など）

霊長類研究所 友永雅樹教授、足立幾磨准教授、川口ゆり氏、野生動物研究センター 狩野文浩特定助教にご協力いただきました。感謝申し上げます。